

第17回大阪大学専門日本語教育研究協議会

大学の研究室コミュニティで見られるコミュニケーションの諸相

—理工系研究室の留学生の事例分析から専門日本語教育・学習支援を再考する—

日時：2025年2月18日（火）13：15～16：50（受付12：50）

場所：大阪大学吹田キャンパス コンベンションセンター会議室3

主催：大阪大学国際教育交流センター

----- プログラム -----

総合司会 国際教育交流センター 准教授 中俣 尚己

13：15～13：20 開会の挨拶 国際教育交流センター センター長 有川 友子

13：20～13：30 趣旨説明 国際教育交流センター 教授 村岡 貴子

13：30～14：30 講演：理工系研究室における人間関係・コミュニケーション機会・
スピーチスタイル
東京海洋大学 学術研究院教授 生天目 知美

14：30～14：45 休憩

14：45～15：15 発表：理工系研究室における研究指導・学習支援の実態
—指導教員へのインタビュー調査から—
国際教育交流センター 講師 福良 直子

15：15～15：45 発表：学際融合クラス「上級専門日本語アカデミック・コミュニケーション」の
教育実践
国際教育交流センター 特任助教 瀬井 陽子

15：45～15：55 休憩

15：55～16：45 全体討論
司会 国際教育交流センター 教授 村岡 貴子
東京海洋大学 学術研究院教授 生天目 知美
国際教育交流センター 講師 福良 直子
国際教育交流センター 特任助教 瀬井 陽子

16：45～16：50 閉会の挨拶 国際教育交流センター 教授 義永 美央子

第 17 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

大学の研究室コミュニティで見られるコミュニケーションの諸相

ー理工系研究室の留学生の事例分析から専門日本語教育・学習支援を再考するー

主催 大阪大学国際教育交流センター

背景および趣旨

大阪大学専門日本語教育研究協議会は、2024 年度で 17 回を迎えます。本協議会が発足した背景には、留学生 30 万人計画をはじめとする国の政策により、多様な国・地域から多様な分野の留学生を受け入れ、当該留学生の日本語能力に応じて大学生活に必要な日本語教育が活発に行われてきたという大きな流れがあります。大阪大学においても、日本語学習経験がほとんど無いか少なくとも、来日後に日本語教育を受け、同時に研究活動に取り組み学位取得を目指すという大学院生・研究生が、英語プログラムの場合も含め、特に理系分野に多数在籍しています。本協議会では、特に理工系分野の研究室に所属し人間関係を構築しつつ所期の目的を達成しようとする留学生のコミュニケーションにフォーカスします。

上記のような留学生が所属する研究室では、構成員の母語や日本語・英語運用能力により、また、研究室文化により受け継がれてきた伝統的な方針により、実際に多様な背景の構成員同士で多様なコミュニケーションが行われていると観察されます。日常的に共同研究体制が敷かれていることの多い理工系では、共同研究に必要なかつ厳密な言語コミュニケーションが行われる必要があります。そのことが研究の成否に繋がるものと考えられます。そのような研究室の状況は、入学前から高度な日本語能力を有する文系大学院留学生の状況とはかなり異なる面があります。また、文系出身者で日本語教育を担当する教員も、理工系研究室のコミュニケーションについて未知のことが多々あるものと推測されます。

以上のような背景と前提をもとに、本協議会では、異文化の中で学位取得を目指す留学生が、一研究者としてリスペクトされつつ、異なる背景の他者と日々協働作業を進めるプロセスで、どのような問題・課題を抱え、どのようにそれを克服しようとするのか、具体的なコミュニケーションに関する事例分析をもとに、協議を展開したいと考えます。

講演者として、専門日本語教育研究等の分野でご活躍になっている専門家の東京海洋大学の生天目知美先生にお話しいただき、CIEE からも関連の発表・実践報告を行います。その上で、全体討論において今後必要な専門日本語教育・学習支援を展望し、さらに、留学生・研究室構成員、教職員がよりよく連携できる可能性を探りたいと思います。

お申し込みフォーム：<https://forms.office.com/r/vjuWg89jGq>